

令和8年9月期金沢大学学位記授与式 学長表彰者

◎学業・卒業論文等の成果が優れていると認められる者

トオリ マコ
通 真子

自然科学研究科 博士前期課程 生命理工学専攻

北陸を代表する水産資源であるアカムツ（通称ノドグロ）の人工種苗生産技術に関する研究を行い、これまで明らかにされていなかった生殖腺の発達過程を解明するとともに、早期性判別手法を開発した。これらの研究成果は、アカムツの人工種苗生産技術の発展に大きく貢献するものであり、国内外で高く評価され、今後も北陸および世界の水産研究分野での活躍が期待される。

プランタ サーカー
PRANTA SARKER

自然科学研究科 博士後期課程 物質化学専攻

水系および有機系複合廃液中におけるの再生技術分野において、機能性吸着剤を用いて産業廃棄物から鉛、ニッケル、コバルト等のクリティカルメタルを選択的に回収する新技術を開発した。また、実廃液中の阻害因子としてキレート剤や親水性有機溶媒に新たに着目し、金属吸着への影響を理論的に体系化するとともに、これらの阻害物質が共存する実廃液に適用可能な分別回収技術を確立した。これらの一連の研究成果は、産業廃棄物中未利用金属資源の再生技術として学術性と実用性が国際的に高く評価された。

ハフィーズ アブドル
HAFEEZ ABDUL

自然科学研究科 博士後期課程 自然システム学専攻

溶媒を使用しない「乾式プロセス」を用いて、生分解性の吸水性ポリマーを製造する新技術を開発した。このポリマーは農業廃棄物を原料としており、綿、稲、トウモロコシなどの植物の生育を促進するように設計されている。この成果は、英国王立化学会主催のメカノケミストリーに関する国際会議および高分子科学分野における歴史ある国際会議である「第19回環太平洋高分子会議」において、それぞれベストポスター賞を受賞した。さらに、埼玉県と新潟県における計8万平方メートルの広大な圃場での実証試験を通じて、この吸水性ポリマーが稲の生育促進に有効であることを実証した。これらの研究成果は、国内外で高く評価された。

カミジマ タイキ
神島 泰樹

医薬保健学総合研究科 博士課程 医学専攻

難治性病態であるダブルネガティブ去勢抵抗性前立腺癌において、前立腺微小環境における癌細胞と間質細胞の相互作用により KRAS シグナルが活性化することが癌の進行に繋がることを明らかにした。本研究成果は新規治療法の確立に資する重要な知見として期待されており、国内外で高く評価された。